

圏域の現状・課題の分析資料

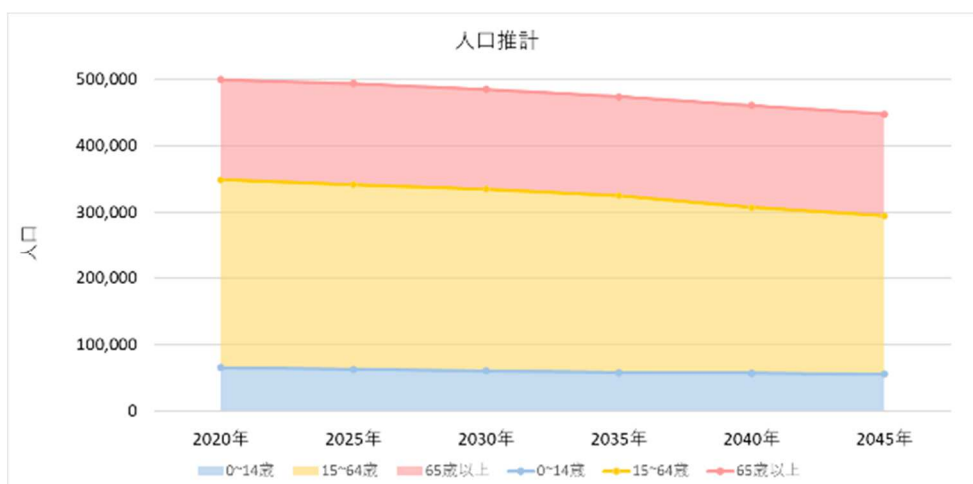
【1. 現状と課題】

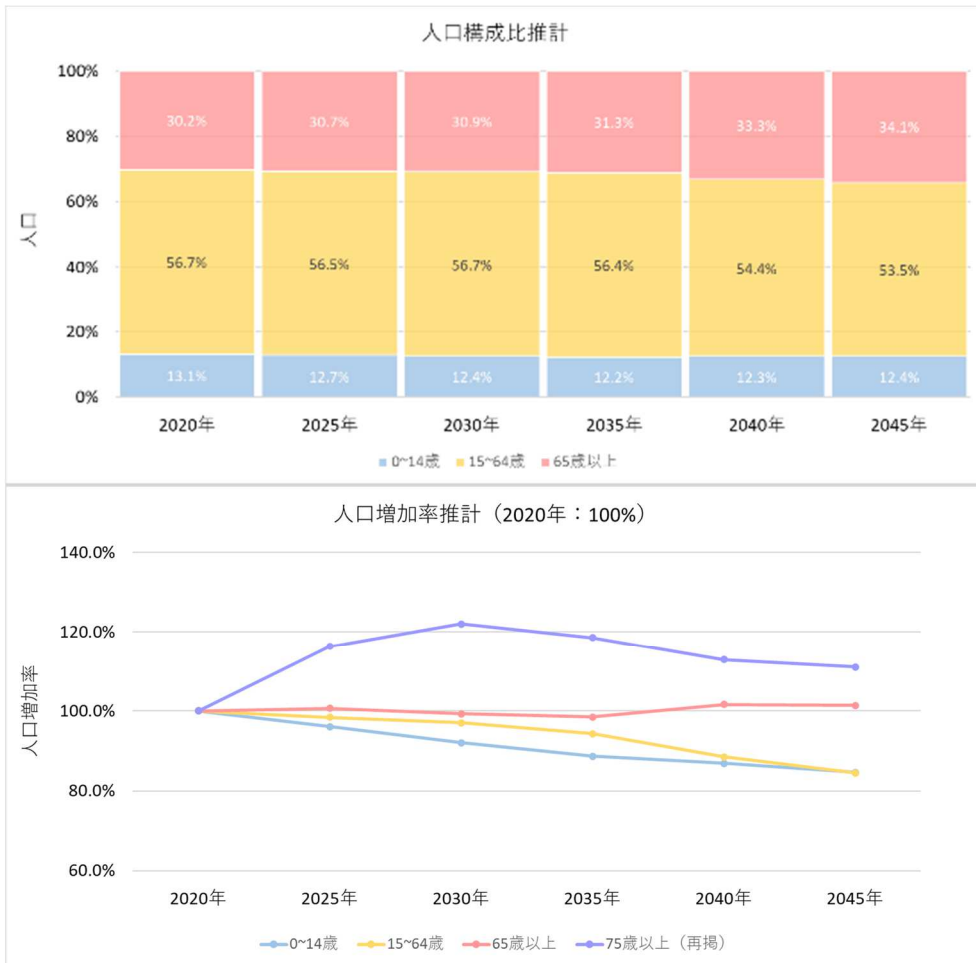
① 構想区域の現状

・地域の人口及び高齢化の推移

令和2（2020）年の福山・府中地域の総人口は499千人（うち65歳以上は151千人、75歳以上は78千人）であったが、将来予測においては令和7（2025）年には約493千人となり、約6千人減少、令和22（2040）年には約460千人となり、令和2（2020）年から比較し約39千人減少すると推計されている。また、65歳以上においては令和7（2025）年には約152千人となり約1千人増加し総人口に占める割合は30.7%、令和22（2040）年には約153千人となりピークを迎え、総人口に占める割合は33.3%となる予測となっている。75歳以上の後期高齢者人口においては令和7（2025）年には約91千人となり約13千人増加、令和12（2030）年に約95千人とピークを迎える推計である。

福山・府中地域	令和2年 (2020)	令和7年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)	令和27年 (2045)
総人口①	499,031	493,089	484,375	473,244	460,430	447,195
65歳以上人口②	150,596	151,562	149,522	148,319	153,106	152,709
地域人口に対する 割合 ②/① (%)	30.2%	30.7%	30.9%	31.3%	33.3%	34.1%
75歳以上人口③	77,916	90,583	95,038	92,382	88,001	86,554
地域人口に対する 割合 ③/① (%)	15.6%	18.4%	19.6%	19.5%	19.1%	19.4%



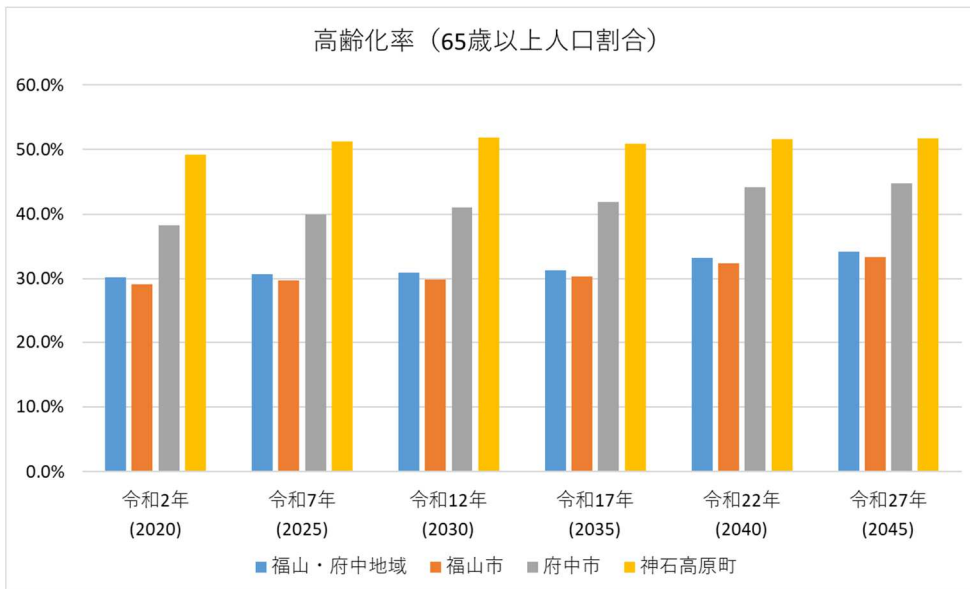
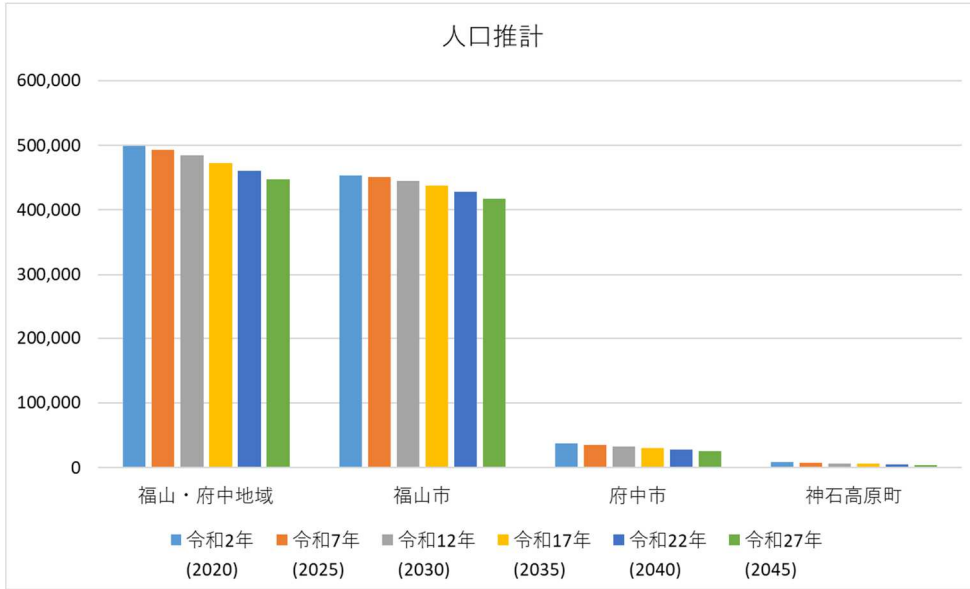


出典：令和2年（2020年）人口は国勢調査

令和7年以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）

を元に、令和2（2020）年をベースの人口動態推計を作成し計算

自治体ごとに見たところ、人口はすでに全体的に減少傾向にあり、将来に向けて高齢化率は上昇するが、特に福山市以外での高さが目立つ状況である。



・地域の医療需要の推移

入院患者数については、COVID-19の影響から令和2年度には大きく減少することとなったが、令和3年度にかけてもCOVID-19流行前の水準に戻ることはなく、ほぼ横ばいである。一部、病床機能転換の影響もあるが、特に高度急性期・急性期の病棟への入院患者の減少がみられている。

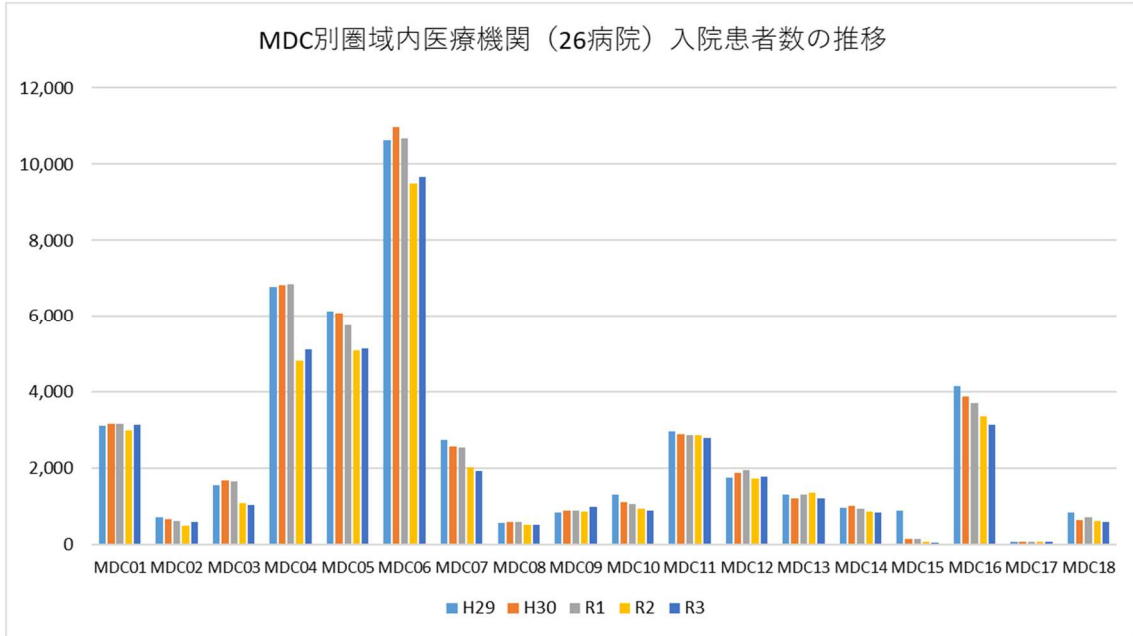
R2 病院	新規入棟患者数	在棟患者延べ数	退棟患者数	平均在院日数
高度急性期	22,847	189,575	22,503	8.36
急性期	51,277	577,009	51,322	11.25
回復期	10,400	379,775	10,374	36.56
慢性期	3,206	310,911	3,103	98.56
R2 診療所	新規入棟患者数	在棟患者延べ数	退棟患者数	平均在院日数
高度急性期				
急性期	8,626	46,127	8,648	5.34
回復期	376	19,448	571	41.07
慢性期	134	7,606	137	56.13

R3 病院	新規入棟患者数	在棟患者延べ数	退棟患者数	平均在院日数
高度急性期	21,729	172,303	21,203	8.03
急性期	46,759	545,240	47,196	11.61
回復期	10,086	363,378	9,875	36.41
慢性期	2,964	297,097	2,933	100.76
R3 診療所	新規入棟患者数	在棟患者延べ数	退棟患者数	平均在院日数
高度急性期				
急性期	6,634	38,213	4,480	6.88
回復期	783	21,036	776	26.99
慢性期	118	10,936	131	87.84

出典：令和2年度および令和3年度病床機能報告

平成29年度からDPCデータを厚生労働省に提出をしている26病院の入院患者数を経年的にみると、主要診断群（MDC）では、令和2年度から令和3年度にかけて、脳卒中等を含むMDC01（神経系疾患）、白内障等を含むMDC02（眼科系疾患）、肺炎や誤嚥性肺炎等を含むMDC04（呼吸器系疾患）、狭心症や心不全等を含むMDC05（循環器系疾患）、小腸・大腸の良性疾患等を含むMDC06（消化器系疾患）が増加傾向となっており、高齢化の影響が表れていると考えられる。また女性系が主になるMDC09（乳房の疾患）、MDC12（女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩）も増加傾向で特徴的であるため、今後の患者動向も見ながら提供体制を検討する必要がある。

MDC01	MDC02	MDC03	MDC04	MDC05	MDC06	MDC07	MDC08	MDC09
神経系疾患	眼科系疾患	耳鼻咽喉科系疾患	呼吸器系疾患	循環器系疾患	消化器系疾患、肝臓、胆道、膵臓疾患	筋骨格系疾患	皮膚・皮下組織の疾患	乳房の疾患
MDC10	MDC11	MDC12	MDC13	MDC14	MDC15	MDC16	MDC17	MDC18
内分泌・栄養・代謝に関する疾患	腎・尿路系疾患及び男性生殖器系疾患	女性生殖器系疾患及び産褥期疾患・異常妊娠分娩	血液・造血器・免疫臓器の疾患	新生児疾患、先天性奇形	小児疾患	外傷・熱傷・中毒	精神疾患	その他



年度	MDC10	MDC11	MDC12	MDC13	MDC14	MDC15	MDC16	MDC17	MDC18	全体
H29	1,315	2,966	1,760	1,312	966	899	4,159	67	843	47,365
H30	1,110	2,904	1,875	1,224	1,028	151	3,886	73	654	46,350
R1	1,063	2,868	1,947	1,319	938	142	3,719	72	710	45,544
R2	938	2,861	1,729	1,356	874	74	3,361	88	622	39,287
R3	890	2,803	1,781	1,223	852	51	3,149	78	606	39,598

出典：平成 29 年度～令和 3 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」

・ 4 機能ごとの医療提供体制の特徴

地域における令和 7（2025）年の必要病床数は 5,031 床で、令和 3（2021）年と比較すると 112 床が超過となっている。年々その差は小さくなってきてはいるものの、高度急性期および急性期が超過、回復期・慢性期が不足という状況が続いている。今後増加が見込まれる回復期医療に対応するためにも、高度急性期・急性期機能からの更なる機能転換について検討を進める必要がある。

区分		令和3（2021）年 における 機能別病床数①	令和7（2025）年 における 必要病床数②	令和3（2021）年と令和7（2025）年の比較	
				病床数の過不足③ （①－②）	増減率 （－③/①）
福山・ 府中地域	高度急性期	645	524	121	-18.8%
	急性期	2,172	1,691	481	-22.1%
	回復期	1,344	1,840	-496	36.9%
	慢性期	876	976	-100	11.4%
	休棟・未選択	106		106	
	病床計	5,143	5,031	112	-2.2%
広島県	高度急性期	4,040	2,989	1,051	-26.0%
	急性期	11,597	9,118	2,479	-21.4%
	回復期	6,495	9,747	-3,252	50.1%
	慢性期	7,395	6,760	635	-8.6%
	休棟・未選択	261		261	
	病床計	29,788	28,614	1,174	-3.9%

出典：令和3年度病床機能報告

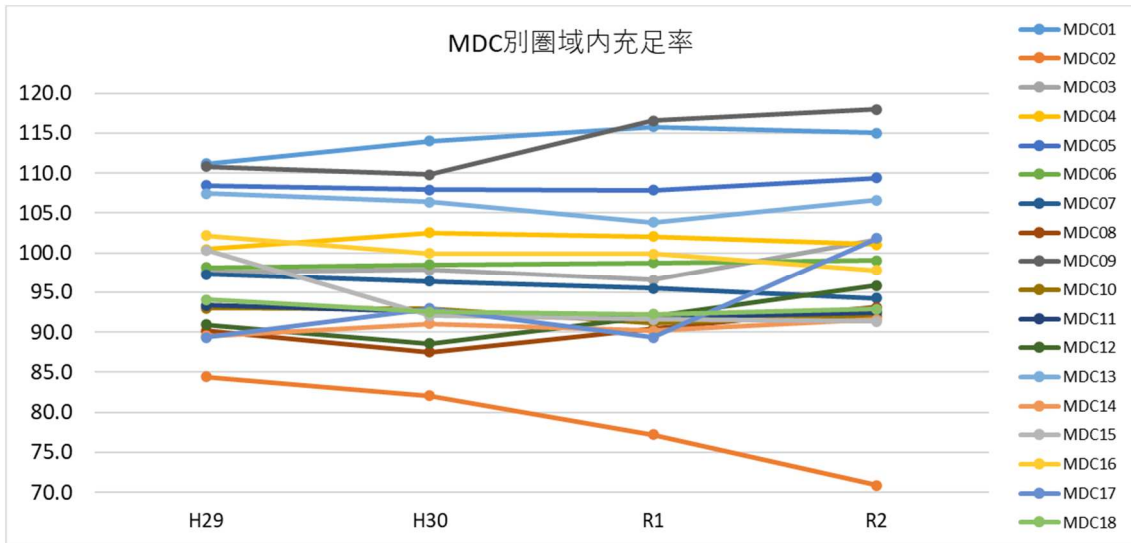
・地域の医療需給の特徴

地域住民の患者がどの地域の医療機関にかかっているかを見たところ、多くが二次医療圏内で受診しているものの、約12.0%は二次医療圏外への流出が確認されている。逆に二次医療圏内医療機関の患者がどの圏域住民であるかを見たところ、やはり多くが維持医療圏内患者であったが、約13.2%は二次医療圏外からの流入患者であった。

	二次医療圏内医療機関	二次医療圏外医療機関		推計流出 患者割合
		県内	県外	
居住地が 福山・府中地域の患者	4.2千人	0.3千人	0.2千人	約12.0%
	二次医療圏内患者	二次医療圏外患者		推計流入 患者割合
		県内	県外	
所在地が 福山・府中地域の医療機関	4.2千人	0.4千人	0.2千人	約13.2%

出典：令和2年度患者調査（割合は、患者数が千人単位で公表のため、計算ではなく本調査で公表されている値を掲載）

また、地域住民の患者数と地域病院での受入患者数を比較して「充足率（地域に居住している患者数/地域に所在する病院受入患者数）×100」をMDC別に見たところ、MDC02（眼科系疾患）、MDC07（筋骨格系疾患）、MDC08（皮膚、皮下組織の疾患）、MDC10（内分泌・栄養・代謝に関する疾患）、MDC15（小児疾患）の充足率が減少傾向でかつ90%を切ってきており、他圏域への流出が進んでいることがうかがえる。逆にMDC01（神経系疾患）やMDC09（乳房の疾患）などは110%を超えていることから、患者流入が一定数あることがうかがえる。



年度	MDC01	MDC02	MDC03	MDC04	MDC05	MDC06	MDC07	MDC08	MDC09
H29	111.2	84.4	97.6	100.5	108.5	98.1	97.3	90.2	110.8
H30	114.0	82.0	97.8	102.6	108.0	98.5	96.4	87.5	109.9
R1	115.8	77.2	96.6	102.1	107.9	98.8	95.5	90.4	116.6
R2	115.0	70.9	101.7	101.0	109.4	99.1	94.2	93.1	118.0
R3	117.0	85.4	102.0	102.3	105.9	99.0	89.6	89.6	113.2

年度	MDC10	MDC11	MDC12	MDC13	MDC14	MDC15	MDC16	MDC17	MDC18
H29	93.0	93.4	91.0	107.5	89.5	100.3	102.2	89.3	94.1
H30	92.9	92.6	88.6	106.4	91.1	92.1	100.0	92.9	92.5
R1	91.2	91.9	92.0	103.9	90.2	91.6	99.9	89.4	92.3
R2	92.1	92.5	95.9	106.6	91.6	91.4	97.8	101.8	92.9
R3	88.8	92.1	97.0	102.1	94.4	80.0	96.3	99.0	87.2

出典：平成 29 年度～令和 3 年度 DPC 導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」

② 構想区域の課題

地域全体としては、人口減少の影響による医療需要の減少傾向がみられる中で、高齢化の影響によって、診療領域によっては医療需要が増加する部分もある。その影響を考慮すると、急性期医療を受けた後の患者の受け皿となる医療機関、地域内での急性増悪に対応し、在宅復帰を支援する地域密着型医療を提供する機能の更なる充実が求められる。

また、MDC16（外傷・熱傷・中毒）の患者数は減少推移ではあるが、大腿骨骨折関連手術についてはほぼ横ばいであり、今後高齢化が進むことで増加する可能性もあることから、整形外科領域の医療機能が低下しないように機能を維持する必要がある。

	骨折観血的手術（大腿）	人工骨頭挿入術（股）	人工関節置換術（股）	計
R1	692	363	273	1,328
R2	729	358	220	1,307

出典：第 6 回、第 7 回 NDB オープンデータ

また、今後は64歳以下の人口減の影響もあり、小児患者の減少が推測される中で、現状すでにMDC15（小児疾患）の充足率低下の状況も見られることから、地域での機能の集約化などによる対応力の維持・向上を検討する必要があると考えられる。併せて、周産期においても、分娩数の大きな減少は見られないものの、担当医師数は減少傾向にあり、今後の医師の働き方改革なども含めて検討すると、地域での機能維持のためにも、集約化も含めて検討する必要がある。

		分娩件数	施設数	担当医師数 (常勤換算)	担当助産師数 (常勤換算)	院内助産所有	院内助産所無
H26	病院	47	6	24.9	61.8	-	6
	診療所	379	4	7.9	7.9	1	3
H29	病院	47	4	19.7	27.4	1	3
	診療所	381	3	7.5	6.7	-	3
R2	病院	46	4	19.4	54.9	-	4
	診療所	377	1	6	5.2	-	1

出典：平成26年度、平成29年度、令和2年度 医療施設（静態・動態）調査

そのような状況において、性・年齢調整標準化レセプト出現比（SCR）では急性期一般入院料の算定件数は全国標準に近い推移を示しているものの、地域包括ケア病棟や地域一般入院料の算定件数が非常に多いため、患者の状態に合った病棟での医療提供が行われているかの検証も行いながら、病床機能を適正化していくことが、将来にわたっての持続可能な医療提供体制の実現に向けて必要と考えられる。また、有床診療所入院基本料の算定も多く、地域における有床診療所の役割が大きいことも示唆されており、今後の機能の維持についても併せて検討をする必要がある。

	急性期一般入院料	地域包括ケア (病棟入院料、入院医療管理料)	地域一般入院料	有床診療所入院基本料
H30	100.6	199.7	169.3	154.8
R1	108.3	214.2	153.2	160.1
R2	107.1	207.7	187.2	165.8

出典：内閣府 医療提供状況の地域差 SCR データ